



福島第一原発に異常

東日本大地震 炉心冷却できぬ可能性

経済産業省の原子力安全・保安院によると、11日午後4時すぎ、東京電力から福島第一原子力発電所の1、2号機で、炉心を冷やす緊急炉心冷却システム（ECCS）が動かなくなった可能性があるという連絡が入った。炉心が十分に冷却できない状態が続くと、炉心溶融など極めて危険な状態になる恐れがある。

保安院によると、地震で原子炉は停止し、核反応は停止した。だが、核燃料の熱が出続けているため、炉心に水を入れて冷やす必要がある。炉心に残る蒸気で注水する隔離時冷却装置は動いているが、本来なら、炉心を冷やす最後の手段であるECCSも作動するはずだった。

だが、停電に加え、非常用発電機の停止も重なり、ECCSが作動しない状態が続いている。隔離



福島第一原子力発電所

時冷却装置が確実に働けば炉心は冷却されるはずだが、東電は緊急事態に備え、電源車による電源復活を急いでいる。

東電は原子力災害対策特措法に基づく「特定事象」を適用、経産省と福島県、地元自治体に通報した。

東京電力の福島第一原子力発電所で、原子炉の運転に必要な電気が送れなくなっているため、経済産業省は11日夕、原子力災害対策特別措置法に基づき、同省内に警戒本部を設置した、と発表した。